



# 文教委員会視察報告

## デジタル教科書と小中一貫校

管外視察で、兵庫・大阪を訪問

多くの自治体では、第三定例会の終わった後のこの時期に、他自治体の先進事例を研修するための管外視察が行われます。毎年北区でも、議員は所属する常任委員会ごとに1泊2日の日程で他自治体の視察を行います。今年私の所属する文教委員会は、デジタル教科書の導入事例研究のため兵庫県西宮市を、施設一体型の小中一貫校視察のため、大阪府池田市を訪問しました。

デジタル教科書利用の現状

初日は兵庫県西宮市の市庁舎を訪問。教育委員会の担当者から、デジタル教科書のことについての説明を受けまし

た。

デジタル教科書とはそもそもどのようなものなのか？ 今回の視察でも、実際に使用して授業を行っているところまでは見ることができませんでしたが、一言で言えばパソコンやタブレットを使用し、学習を進めることができる、新世代型の教材です。個別学習では生徒の理解度に応じた活用ができること、たとえば立体図形を展開する説明を行う際に、教師が説明用の教材を作成する手間が省けるなどの利点があります。

一方、教員独自の工夫による授業の進め方ができないこと、あまりデジタル教科書に依存しすぎると、先生が教師ではなく、ただの機器の操作説明係りになってしまう問題があるよ

うに感じました。

現在ほとんどの教科書会社がこのデジタル教科書を提供しているとのこと。有効に使える教育効果をあげることもできるでしょうが、それなりの費用がかかるものです。導入するには、同じ費用で学力パワーアップ講師が雇えないかななどの検討も必要だと思いました。

翌日は大阪府の池田市に移動。施設一体型の小中一貫校「ほそごう学園」の視察を行いました。今回見学した施設は施設一体型の学校でしたが、池田市教育委員会の担当者からは、小中一貫教育とは、施設をひとつにすることでではなく、9年間で子ど

小中一貫校の視察

もをどう育てるのかの理念を持つことだ」との説明がありました。池田市は、市が独自に予算を出すことで、小学校3年生の35人学級化を実施。また、「池田学」と名づけた、地域の歴史や文化を知る取り組みなども進めています。

さらに、北区で言うところのサブファミリアの交流を円滑に行うための教員を、市独自に手当てするなど、教育に力をいれています。

「ほそごう学園」の敷地面積は25900㎡。北区で一番広い十条富士見中学よりも約2割、稲付中学との比較では3倍もの広さがあります。北区でも施設一体型の小中一貫校導入が検討されていますが、乗り越えるべき課題は多いように感じました。

# 北京市西城区 訪問記

表面でご報告した管外視察から帰った翌日、9月22日から25日にかけて、北区との友好都市関係にある中国の北京市西城区を訪ねてきました。

王子小学校と北京第一実験小学校との絵の交流がきっかけとなつて結ばれた友好都市関係は、今年でちょうど30年になります。区としての交流はこのところ



北京市西城区政府の皆様と懇談。  
右側は参加した議員団



西城区と北区の太极拳愛好者同士の交流。  
後ろの横断幕に、「太极拳友好交流活动」の文字が見えます。



お菓子屋さん



中国の缶ビール350ml 2元＝約38円です  
ドイツビールの500mlは10元＝約190円

途絶えていきましたが、今回、政府レベルでの友好関係の発展を図るため、議員団から8名が派遣されました。北区、西城区の太極拳団体の交流のほか、王子小学校との交流のある北京第一実験小学校や西城区第一図書館の視察を行うことができました。市内はオリンピック開催によって開発が進み、幹線道路脇には高層ビルが立ち並びますが、少し路地を入ると「胡同(フートン)」と呼ばれる旧市街地で、まだまだ多くの方が生計を立てています。



北京第一実験小学校では運動の時間を保障するため、体育の授業がない日は、下校前に縄跳びやウォーキングを行うそうです。



「胡同(フートン)」と呼ばれる旧市街地。屋外の共同トイレを使用するという住まいも市内各地に存在します。